

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 150号

平成26年10月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

石館守三先生の文章より (12)

「石館守三先生金曜会語録」より (8)

### 新学期にあたっての所感

新学期にあたっての所感。学問上の恩師は学問に対して厳粛。先生が定年退官のときに話された言葉「人生は芸術家が創作をするようなもの。素材は人により違う。違うなりに masterpiece を作るのが人生。私は全力を尽くした。これが自分の慰めである」と。「life is art.」自分に与えられた素材で創作するのが人生。

内村先生著『後世への最大遺物』人により遺物は違う。後世に残すことは人間としての清い生活、美しい人生である。事業は出来なくても高い理想を持って人生を送ることが最も大事なおくりもの。

同志会に入って人生は何をするかと考えた。先生方の教え、聖書の教えをたぐりとして考えた。そのように同志会にいる間人生は何

をするのかと考えることが重要。与えられた生命をいかに献げるか、使うかが重大だと思う。人間として生まれた生命は動物的な生命ではない。理想も vision も正義も高遠な生活もない。

神の義、人間の理想、愛は人間だけのもの。この生命は死んでしまふ命ではない。キリストは身をもって示した。永遠の生命につながる生命である。「生命を失なわば、全世界を得るとも何の益があるか」

人生における masterpiece は生きた生命の人生である。人生を大事に。神に捧げる、喜ばれる人生であって欲しい。そういう夢を語る同志会がよいのである。人生、人生への問いが重大。同志会にいる間に考えてほしい。

(昭和 48 年 5 月 11 日 金曜会)

## よき先輩、師につけ

我々はある環境、条件にしばられている。しかしその場合自分の師匠が必要である。学生時代自分は何もできないという謙虚な気持ちが必要。よき先輩、師につくことが第1。第2に真理に対する畏敬の念。この二つの条件にあって自分で何が出来るんだろうという。

条件において素材をどう作って行くか。その中で世の中にプラスになる。自分であることをやろうとしてうまくいかない場合はある。自分で思ったことをするよりもやらされることの方が多いのではなかろうか。自分に何があたえられるのか問いながら、一生与えられた材料、能力、環境を何に捧げる。

(昭和 49 年 4 月 19 日 金曜会 署名式)

## 夢は真理に触れていなければ消えてしまう

私の青春時代、かすかにささやかれた。よき友人、先生を持たなければそれが消えてしまう。おもしろおかしく送ってしまうのが多くの人の人生ではなかろうか。夢が真理に触れていなければ消えてしまうのである。

命がけで守る道があるのならばそれを教えて下さいと祈ったことを覚えている。先生を通し、同志会生活を通してそれを教えられてきた。何が一番違うか。Yes or No の規準は何であるか。しどろもどろである。その基準を持っているかいないかの違いである。日本人の弱さを感じる。薬の問題についても然り。学問も社会に還元しなければ何にもならない。研究所が出来た。建物は出来た。設備は出来た。人も集めた。この言葉を玄関に「この研究所は真理を探究し神と人に仕えるために」我々の同胞に何を残せるのか真実を求めよ。今は準備の時代である。こういうチャンスは一つの摂理の下に置かれている。それを choice するかどうかはみんなの選択にある。真理と正義と愛が生きているならば。

(柴田真希都さん、出席。(昭和 50 年 6 月 6 日 金曜会))

## 人生を満足して終えるには何をなすべきか

時おり自分の一生の意味を考えることがある。少しは人のために  
( 汝の水の上にはパンをなげよ、新官はM和波Kじゃ欄戦後い内  
伝わるものであるらしい。

なったと思うこともあるがこれはとても危険なことだ。しかしこ  
れは近くの人々の助けをかりて初めて出来たことである。自分個人  
としてはそのような誉れは何もない。神の前には0である。にもか  
かわらず、我々が人生を満足して終えるには何をなすべきかという  
ことを考えている。キリストの伝道の短い生涯、キリストもこの間  
に すべてのことをなしたのではない。その時代の少数の人が彼に  
触れ、彼の声を聞いただけであった。しかし彼を必要とする人々は  
数限りなくいる。彼はその人々のことを祈って十字架についた。人  
が死ぬ時ある希望と願いを残すことが出来ればそれは幸せではなか  
ろうか。

先日研究者たちと旅行し、話をした。「先生には暗さというものがない」またある人「先生は困った顔をなさったことがない」自分は多少の努力はしている。それは“憂いは次の日まで残さない”ということ。今日全力を尽くしたのであればそれでよい。若い時には悩

んだこともあった。しかしその悩みが人生にどれほどの意味があるかと考えて今のように考えることになった。

(昭和 50 年 10 月 24 日 金曜日)

### 汝のパンを水の上に投げよ

真実と愛情は伝わるものであるらしい。聖書から学んだ人生観を持って話をすると。

卒業生へ。社会悪を見て虚無的にならずに耐えて欲しい。真剣に求める若者が好ましい。真理とは、愛とは、名論卓拙を持たずともその一生がすべてを語る。世間であたりの悪いようなクリスチャンではいけない。社会に尽くすことを忘れてはいけない。汝のパンを水の上に投げよ。信仰によった行為は信仰を持って。

(昭和 51 年 2 月 20 日 金曜日)

注 「汝のパンを水の上に投げよ」は、讃美歌 536 番の主旨。讃美歌第 536 番は、高円寺東教会の献金するとき歌われた讃美歌であったが、石館先生のお好きな讃美歌でもあった。

## 聖書を衣を正して読みなおせ

この世は不合理だらけだ。それゆえ信仰は冒険である。合理的な判断からはとてもでないが耐えられまい。そういう時行なうべきことは聖書を衣を正して読み返すことである。ここには真理の泉も、愛の存在も、全てキリストを通して神によって与えられているのだ。そしてこの書物を一生の間、この言葉、神の言葉に一生をかけた人を知る時、…問題はそれを説いている人自身である。

私は白山上の外国人女性宣教師のことを知っている。彼女はまさにそのような人だった。空襲のとき彼女は日本人に落ちるなら私の頭の上に弾を落とさせ給えと叫んだ人だった。決して知識を持っている人ではない。たった 1 冊の本、聖書のみを持ってそれを説いている。信仰というものは超越である。真理は既に投げられている。…

再び言おう。この世は不合理である。しかし我々はそこにある人々、我々の前に立つ人を見ることによって希望を与えられるのである。神の言葉に命をかけるかかけないか、これこそが信仰だと思っている。聖書に対して耳を澄ましてみたまえ。きっといつかそこに言葉が聞こえてくるであろう。 (昭和 53 年 1 月 20 日 金曜日)

## 自分の使命を最善を尽くして生きよ

生きることの意義は何か。安定を求める人の当然の欲求である。しかし心すべきことは、それだけが人生かということ。つまり安楽な文化的な生活、安定な生活にどれだけの人生の価値があるかを知らずに、生きると悲劇的だ。それ以上の理念がない時、物質的な欲望の追求ばかりして、人生の価値判断を深く吟味することなしに生きると不幸だ。自分を生かす道は何か考えるべきだ。多くの人はそれについての反省や考えが浅い。

人まねでない自分の道を行け。自分の使命を最善を尽くして生きよ。月給の少ないことに不平を言うのは無邪気だ。人よりも少なくもらうことは、それだけ社会の与えていることだ。月給の価値が価値のすべてではない。

人は人なり、我は我なり。自分の道を行け。経済的に人より上に行こうとする人の努力は高く評価するが、それが人生の価値ある姿かどうか反省する必要がある。ただ自分の欲望のために努力している人は、時間と共に消えていく。自分の使命を追求するものは時間と共に輝くだろう。就職したい迷いもあろうがそれが人生の最終の目標ではない。

(昭和 53 年 9 月 22 日 金曜会)



## 先輩の信仰によって教えられる

若い頃には本当に信仰は分からない。先輩の信仰によって教えられた。さらに外国の伝道師の真摯さ、日本人の上に爆弾を落とすよりも私のところに落とせと言って防空壕に入らなかった。また内村鑑三の説教、聖書の普及に勤めた真剣さ。祈る心の起こることが大切なのだ。謙虚にキリストの言葉を受け入れる時こそ信仰の始まりである。

(昭和 54 年 10 月 12 日 金曜会)

イエス・キリストを知ることが出来て幸福であった

55年前に教会の門を叩き同志会に入った。偶然と言っていい程で、進んで入ったものではない。しかし神の摂理と現在では感謝している。学問は真理を探究するもの、自然科学は自然界を、文学は人間を。しかし「人生の目的は何か」ということに答えてくれるものはない。メーテルリンクの「青い鳥」風に人生の青い鳥を探し求めたこともある。

同志会は特に目的の明確になっていない寮。人生の意味を求める良い場であるように先輩が祈ってくれる寮である。東大は最高学府であっても「人生の意味」を教えて呉れはしない。「とるべき人生の道」を探し求め、得なければ何にもならない。

私は人間の理想像としてのイエス・キリストを知ることが出来て幸福であったと思う。若い人は探し求める態度が大切だと思う。それまで謙虚あるべきと思う。同志会には特別な規則はない。「Three Minimum Duties」も規則ではない。習慣づけると良いという訳である。朝の祈り。日曜は人生の道について学ぶ方がよい→教会に行く。共に語る→金曜会。 (昭和 55 年 5 月 16 日 金曜会 署名式)